

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870501511
法人名	(株)えひめメディコープ
事業所名	グループホームとらや
所在地	愛媛県新居浜市若水町2-7-4
自己評価作成日	H26年6月12日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年7月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

「笑顔のある暮らし」の理念の下、いつも笑いの絶えない家庭作りを目指してスタッフ一同頑張っています。しかし、重症化に伴い、とらやのモットーである、全員参加の外出行事も年々難しくなってきました。ご家族様の協力も得て、なんとか現在実施できているのが現状です。今後も夢叶えツアー等、出来る限り楽しい事は共有していこうと思っています。また、地域交流・活性化を目的にはじめた、地元の愛護との餅つき大会も今年で6回目を迎えています。小さい子供さんや保護者の方との交流があり、今後も継続していくつもりです。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●旅館だった建物を改修して開設した事業所で、食堂から中庭や裏庭を眺めることができる。裏庭に季節の花や野菜を育て、中庭ではバーベキュー等を楽しんでいる。毎年、干支のちぎり絵を利用者と職員でつくっており、調査訪問時は馬の絵が廊下に飾られていた。ゴーヤのグリーンカーテンのあるテラスには笹飾りを飾っており、「ボーイフレンドができますように」「これ以上目が悪くありませんように」等、個々の願いを書いた短冊が吊るされてあった。エプロンを着けソファに腰かけ、洗濯物を畳んでいる利用者の様子や、100歳を超えた利用者へ他の利用者が手助けすると、「ありがとうね」とお礼を返す場面もみられた。週2回、体操の先生が来てくれており、食堂で体操教室が開かれている。春には「花が咲く」や秋には「太鼓祭りの歌」等、季節の音楽をかけてストレッチを行っており、利用者が楽しく体を動かせる時間になっている。

●「夢叶えツアー」の一つとして、昨年6月には、市外の利用者の親戚の家を訪ねられるよう、娘さんと職員が付き添い支援された。久しぶりの対面に利用者は涙を流して喜ばれたようだ。又、利用者の出身地である市外の島へ船に乗って出かけられるよう支援した際には、墓参りをして、住職に会いお守りももらって帰られた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. <b>利用者の2/3くらい</b> 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. <b>たまにある</b> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. <b>利用者の1/3くらいが</b> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. <b>ほぼ全ての利用者が</b> 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		1. ほぼ全ての家族と 2. <b>家族の2/3くらい</b> 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
				1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. <b>たまに</b> 4. ほとんどない
				1. 大いに増えている 2. <b>少しずつ増えている</b> 3. あまり増えていない 4. 全くいない
				1. ほぼ全ての職員が 2. <b>職員の2/3くらいが</b> 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての利用者が 2. <b>利用者の2/3くらいが</b> 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
				1. ほぼ全ての家族等が 2. <b>家族等の2/3くらいが</b> 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームとらや

(ユニット名) \_\_\_\_\_

記入者(管理者)

氏名

高次 真理

評価完了日

2014年 6月 12日

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)  復唱はできてはいないが、理念は食堂、更衣室など、いつも見える所にあり、常に念頭にあり、介護に心がけている。	
			(外部評価)  「笑顔のある暮らし」と理念を掲げて、「楽しく笑いのある暮らし」を目指しておられ、管理者は申し送り時に、利用者が楽しめるような話題や声かけ等について職員にアドバイスされている。又、職員と話し合いながら年間目標や月目標を立てており、7月の目標は、「熱中症に気を付けよう」と決めておられた。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)  地域の役員会に役員、組長として参加し、組のお世話役をしている。また、同時に行事へはできる限り参加している。(ゴミ当番・文化祭・運動会など)そして、毎日の買い物等で顔見知りとなり、地域からの声かけもある。	
			(外部評価)  事業所は、「介護についての相談やいつでも来て話せる場」を目指しており、管理者は自治会や地域のレクバレーチームに参加する等、地域の方達と積極的に交流して事業所のことを知ってもらえるよう努めておられる。昨年、初めて中学生の職場体験を受け入れ、今年も7月初めに2日間、3名の中学生を受け入れられた。生徒は、利用者とお話したり買い物と一緒に等しながら過ごされた。近くの保育園の運動会には、利用者全員で出かけ、園児の踊りを見たりプレゼント交換等もして交流もされた。校区の運動会や文化祭に参加して、景品をもらってうれしそうに帰ってこられる方もあるようだ。事業所主催のバーベキューや餅つき大会には、地域の子どもや隣人等も誘い、にぎやかに行われている。	
3	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)  買い物先での声かけに対し、答えたり、運営推進会議において、話をしたりしている。また、職場体験として中学生の受け入れや、実習生の受け入れも予定している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p><b>(自己評価)</b> 他施設訪問を行い、他のグループホームとの交流で、良い所を取り入れていく。他グループホームの運営推進会議にも参加している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 会議時、事業所から行事やアクシデント等の報告と説明を行ったり、認知症の学習会を行うこともある。会議の取り組みの一つとして、昨年8月には、会議メンバーと一緒に他事業所の運営推進会議に参加された。他事業所の便りを見てメンバーからは、「事業所の活動がよくわかる」との感想があり、事業所でも便り発行の再開を検討することにつながっている。今後も他事業所訪問の取り組みを継続し、さらに、次回は事業所の会議に他事業者の方を招くことも予定されていた。こうした活動を通して、事業所同士の横のつながりを深めたいと考えておられる。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p><b>(自己評価)</b> 運営推進委員として、毎回包括より担当者に参加してもらったり、何かあれば、介護福祉課担当者に相談するようにしているが、もっとこちらから積極的に関わって行く様、心がける。</p> <p><b>(外部評価)</b> 運営推進会議時、地域包括支援センターの職員に介護保険や、市内の行方不明の高齢者について報告や説明を行ってもらっている。介護相談員は、2ヶ月に1度、2名の方の訪問があり、利用者とお話して日頃の生活について聞き取ってくれている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p><b>(自己評価)</b> 毎年研修会に参加したり、学習会をしたり再認識し、日頃の介護につなげている。ただ、重症化に伴い、早期に対応ができるように各センサー（ポータブルや固定センサー、マット等）での音の拘束はある。なるべく音に頼りすぎないように心掛けてはいる。不穏な入居者には、好きなようにしてもらい、その状況に応じてマンツーマン対応をしている。また、不穏になる前に生きがい作りにつなげるように努力している。</p> <p><b>(外部評価)</b> 前回の外部評価以後、1度、すべてのセンサーを止めてケアを試された。安否確認を増やす等したが、重度の方や落ち着かない様子の方が多い現状と、通路が長く2階にも居室があることから、職員の不安感や体力的な困難さが著しかったようである。職員で話し合った結果、利用者の安全を守るためにセンサーの使用を継続することになり、日中部屋で横になる方2名及び、夜間立ち上がり不安定な方に、センサーマットやポータブルセンサーを使用して支援されている。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  毎年研修会に参加したり、施設内学習会をしたりして再認識をし、日頃の介護に繋げている。また、ゆとりを持ち、ストレスを溜めない様に、何でも言い合える雰囲気作りを心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  研修会があれば参加するようにし、対象入居者様がいれば家族等話し合いを持つようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  入居時、契約変更時等は家族と十分説明を行い、契約を結ぶようにしている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  玄関に意見箱を置き、また、年2回家族会を持ち、意見・要望を聞くようにしている。また、年1回医療生協アンケートでも家族等の意見が反映され、スタッフ部会や、家族会で検討がなされている。  (外部評価)  家族会やご家族の来訪時、又、遠方のご家族には電話を掛けた際に暮らしや支援についての希望や要望を聞くように努めているが、「今のままで」と言われる場合が多いようだ。法人が行うアンケートに、ご家族から耐震や火災に関する不安の声があったことから、家族会時に事業所の災害等への取り組みの現状を説明された。家族会時、運営推進会議参加を持ち回りをお願いしており、家族同士で話し合って決めている。	利用する側である利用者やご家族からの意見や要望は、事業所のケアサービスの質の向上への取り組みにつながる大切な声でもある。ご家族の中には事業所に意見や要望を出すことを遠慮する方もあるようで、今後さらに、ご家族が言い出しやすいような取り組みの工夫を重ねていかれてほしい。又、便りやお手紙等、ご家族と利用者をつなぐような取り組みについても工夫されてはどうだろうか。

# 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎日での気づきは、気づきノートに記入してもらうようにし、月1回部会において、業務内容を検討するようにしている。また、年2回個人個人において面接を行い、意見要望を聞くようにしている。	
			(外部評価) 月1回、学習会を全職員参加で行われており、業務内容の検討の他、今回の自己評価の作成も職員で意見を出し合ってまとめられた。その際職員から「理念や災害等避難時の役割分担の復唱ができてない」等の意見があり、職員が確認、自覚をするためにも朝の申し送り時に復唱することを決められた。職員は、学習会時の他にも申し送り時に、「グリーンカーテンを作ってはどうか」「ケアプランの目標が支援できているかどうか確認できるように、個別記録に短期目標を記入してはどうか」等、提案や意見があり、取り組みにつながっている。事業所は、職員の退職や異動がほとんどなく、職員同士で協力し合って取り組みをすすめておられる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 取締役会に、前月の経営、運営状況を提出し、月1回取締役会に参加し、意見を出し合い、職場作りに勤めている。必要なものは買ってもらっているようにしている。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 面接により、各人が研修に参加しやすい方法を見極め、その人にあった研修を進めるようにしている。また、会社として、研修参加費や交通費の助成が認められている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 県のGH協会に加盟し、研修会に参加することにより交流を図ったり、相互評価には必ず、複数参加するように勤めている。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、本人・家族と面談を行い、アセスメントシートを仕上げると同時に、本人の気持ちを理解するように心がけている。	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居時、本人・家族と面談を行い、アセスメントシートを仕上げると同時に、家族の気持ちを理解するように心がけている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居された時点では、介護計画を小まめに更新し、その時々にあった介護が出来るように心がけている。(まず1か月)	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 日々の掃除、洗濯物干し、たたみ、買い物等ともに協力できるように心がけている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 診察は出来るだけ家族にしてもらったり、イベントなどに来れる方には出来る限り来ていただいて面会を多く持つようにしている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 2012年度より、入居者様の誕生日に、担当者がご本人・ご家族と相談をし、ご本人が今一番望んでいる場所へ一緒に出かけ、1日過ごす「夢叶えツアー」を実施している。  (外部評価) 「夢叶えツアー」の一つとして、昨年6月には、市外の利用者の親戚の家を訪ねられるよう、娘さんと職員が付き添い支援された。久しぶりの対面に利用者は涙を流して喜ばれたようだ。又、利用者の出身地である市外の島へ船に乗って出かけるよう支援した際には、墓参りをして、住職に会いお守りももらって帰られた。管理者は、今後も懐かしい人や場所を聞き取り、ご家族の協力も得ながら支援していきたいと考えておられた。近所のスーパーへ買い物に行くと、店員さんに「今日は〇〇さんだけ？」等、声をかけてもらうこともあり、顔なじみになっている利用者もある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 絶えず一人ひとりに気をつけながら、声かけし、よい関係づくりが持てるように援助している。状況を見ながら席替えをしている。また、間に入って話しをしたりとこまめに対応している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了家族に対して、年賀状等を送るようにしている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 3ヶ月ごとに担当者により、介護計画の見直しを行っている。また月1回のカンファレンスで現状を話し合い、職員同士で共有するように努めている。  (外部評価) 年1回、センター方式の様式を用いてアセスメントを行うようになっているが、空欄部分も多くみられる。利用者の日々の様子や会話の内容等は、「気づきノート」や日々の「状態観察記録」に書き留めており、申し送り時に確認されている。しりとり等のレクリエーションに興味をもち、「ぼけたくない、頭の体操をしたい」という利用者には、職員が本を用意された。利用者ご本人は、一生懸命に勉強しておられ、調査訪問時には漢字で書かれた国名をすらすら読んで聞かせてくださった。	今後、管理者の交代が予定されていることから、利用者個々の情報をすべての職員で共有できるよう仕組みを作してほしい。管理者は、今後ひとつ一つご本人やご家族から聞き取りながら、アセスメントをすすめていきたいと考えておられた。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時アセスメントシートを家族と本人からの聞き取りをし、活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎月のカンファレンスにて、それぞれの入居者様の様子を把握し、介護の統一を図るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 毎月のケアカンファにて、それぞれの入居者様の様子を把握し、利用者様にあったケアができていないか等介護の統一を図るようにしている。また、毎月精神科カンファレンスにより、主治医と最近の状況等検討が出来る様にしている。担当者がご家族に聞き取り、意見が反映されている。</p> <p>(外部評価) 管理者、計画作成担当者、リーダーで介護計画を作成されている。日々の「状態観察記録」をもとに、月1回、介護計画検討会にて職員全員で支援状況について話し合っており、3ヶ月ごとの介護計画見直しにつなげておられる。介護計画検討会へご家族も参加していただけるよう声かけしたが、時間帯が合わず、現在は、ご家族の来訪時にケアへの希望を聞きとり、反映できるよう取り組まれている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 個人記録に、ケアプランを記入し、その日その日のケアがどの目標に基づいて行われているか、それぞれのスタッフが記入し、担当者が月1回モニタリングするようにしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 出来る限りは本人、家族の希望を取り入れるようには努力している。(外出レク・体操・頭の体操など)</p>	
29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 地域にあるスーパーへ、ほぼ毎日外出している。また、参加できる地域行事へも参加している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 契約のときに、かかりつけ医を聞き、何かあればできるだけかかりつけ医での対応に心がけている。受診時、毎月の現状を、かかりつけ医に渡し、正確に情報が伝わるようにしている。</p> <p>(外部評価) 定期受診は、ご家族にお願いしているが、ご家族の都合や急変時には職員が同行して支援されている。通院が難しい方には、主治医と相談の上、2週間に1回往診してもらっており、ご家族も同席している。骨折して入院していた利用者が退院後、主治医のアドバイスを受けながら事業所内で段階的なりハビリを行い、自力で歩けるまでに回復した事例がある。</p>	
31		<p>○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価) 一般状態に係らず、皮膚の状態等少しでも変化があれば、看護師に情報を集中するようにしている。</p>	
32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価) 必ず病棟との連携にて病状把握に務め、利用者様が、安心して治療ができ、早期の退院が出来る様に努めている。</p>	
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) ターミナルについては、契約時と、年一回に意思確認をし、家族・本人への説明を行っているが、状況に応じてその都度相談を行っている。終末期には家族と密に連絡を取り、看取りを行っている。</p> <p>(外部評価) この2年間で3名の看取りを支援された。利用者、ご家族の希望があり、医師と話し合いの上、支援された。ご家族は度々来られて、おやつを食べる介助等をしたり、週1回の往診時には医師とお話して状態把握された。事業所では看取りの基準を作成してご家族に説明されており、職員には、看護師資格を持つ管理者が講師となって、看取りについての学習会を行われた。職員は「不安であったが看取りの経過が分かってきた」と話しておられた。支援については、職員にアンケートを取っており、「繰り返し勉強が必要だ」という意見もあり、今後も勉強会を行う予定である。利用者の意思確認のために、毎年1回、終末期の在り方について聞き取っており、ほとんどの方が事業所で最期まで過ごすことを望んでおられる。</p>	

## 自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 年1回の学習により振り返りはしているが、身についたとはいえない。必ず、管理者(看護師)に連絡をし、支持を仰ぎ、主治医と連携を持っている。また、連絡体制は確認出来ている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 定期的(年3回)な避難訓練(に運営推進会議のメンバーも参加し、実施しているが、すべて身についたとはいえない。災害時の役割を貼り出している。	
			(外部評価) 避難訓練は、消防署立ち合いの下で1回、事業所内で1回、通報訓練を1回、年に計3回実施されている。運営推進会議メンバーも参加され、避難場所である自治会館まで車いすを押し、利用者を避難させる訓練も行われた。車いす使用の利用者を外部者が素早く知ることができるように、該当する利用者の居室前の名札の下にマスコット人形を吊るしている。災害時には、近くにある母体病院や他法人の福祉施設の協力が得られるようになっている。	管理者は、今後も情報を集めて様々な地域の組織に働きかけ、「地域の高齢者が住まわれている場所をまとめたり、安否確認はだれが行うか等、役割分担を決める等、地域が連携した災害対策に取り組みたい」と考えておられる。運営推進会議等を活かして地域とともに災害に備える仕組みについて話し合われてほしい。又、事業所の建屋は築60年以上経過しており、地震や台風時の被害に備え、いろいろな想定で訓練をすすめていかれてほしい。
<b>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 本人の人格を尊重しながら声かけをしているが、本人とのなじみの関係での声かけとなっていることもあり。	
			(外部評価) 「子供が帰るから家に帰る」と話される方には、「まだ学校の時間ですよ」と言って落ち着いてもらう等、利用者を傷付けないような言葉かけに気を配っておられる。又、利用者が使用中のトイレのドアはきちんと閉め、使用後には換気を行う等して支援されている。人権について話し合った際には、「人権とは自己決定できること」であると職員間で確認し、日頃から食べたいものやしたいこと等、利用者の希望を聞き、支援することを心がけて取り組まれている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活における色々な事は必ず本人さんに聞くように心がけている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 出来るだけ、本人の過ごしやすいような流れで対応しているが、一部こちらの時間の流れになっているところもある。(食事時間や入浴時間など)	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 外出時には、本人と一緒に洋服を選んだり、顔剃りしたり、カットやパーマをかけたい希望があれば、家族とも相談をし、お出かけするようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) その方の能力に応じた方法と一緒に調理できることは手伝ってもらっている。また、調理を工夫し、おいしく、楽しく食べてもらえるようにしている。	
			(外部評価) 利用者は「いなりずしが食べたい」「この間のカレーがおいしかったから、また作ってほしい」等、食事についての希望が多いようだ。月、木曜日はレクリエーションを充実させる目的で昼食は配食を利用しているが、そのほかは、近くのスーパーに利用者や食材の買い出しに行き一汁三菜で手作りされている。調査訪問時は、「〇〇さん、カレー好きですよ」「カレー大好きよ」等、利用者と職員で会話しながら一緒に食べておられた。近所の方からいただいたトマトやサトイモ、事業所の裏庭で採れたキュウリやなす等を使って調理することもある。利用者は、野菜の下ごしらえ等をされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分量や、食事の摂取量を、チェック表に記入するようにし、必要な水分、栄養が取れているか把握に努め、摂取していただけるように努力している。できていない方には、野菜ジュースやエンシュアで補食している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 毎食後とは行かないが、一人ひとり口腔ケアができるようスタッフがつき、はじめは自分で、できないところをスタッフが補助するように援助している。(口腔ケアチェック表に毎日チェックしている)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	その人の生活リズムやシグナルを察知し、誘導を行い、また、トイレに入ったときを見計らってパット交換や、上げ下ろしの介助をしたり、できるだけ自分でトイレ排泄ができるような援助を心がけている。	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	排便チェック表で排便をチェックし、その人の体調に合わせた食事、捕食、担当医と相談し、定期的な下剤により排便をコントロールしている。	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	入浴チェック表を元に、毎日必要な方から声をかけ、入浴してもらっている。時間帯は午後からのみとなっている。	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	その人の体調、生活習慣を把握し、その人にあった休息を援助している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個人のカルテに薬剤情報を閉じつけ、いつでも誰が見てもわかるようにしている。変化のある時は申し送り時必ず連絡している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) アセスメントシートをもとに、本人の得意な事、好きな事を伸ばせるように、また楽しめるように皆で智恵を出し合い援助している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 一人ひとりの希望を聞きながら、月1回は出来るだけ外出やイベント行事を計画している。ボランティア、家族の協力を得ながら、年1回、砥部の動物園や国民休暇村瀬戸内東予へ日帰り旅行に行っている。一人一人希望があれば可能な限り希望を叶えている。	利用者から外出の希望があっても、職員の体制上すぐにお連れできないことを残念に感じており、事業所では今後、外出ボランティアを増やす等して、利用者の行きたいところから日頃から応えられるよう、支援していきたいと考えておられた。利用者の意欲を支援していけるような取り組みに、今後も工夫していかれてほしい。
			(外部評価) 今年6月に、3家族7名、利用者9名と東予国民休暇村に、毎年恒例の日帰り旅行をされ、お風呂やバイキング等を楽しまれた。お孫さんや曾孫さん等の参加もあり、利用者は日頃より笑顔が多くみられたようだ。利用者の希望で、動物園やお花見、買い物、外食等、毎月外出できるよう支援されており、事業所のリフト付の10人乗りの車を使用し、車いすを押してもらおう等のボランティアをお願いする場合もある。事業所周辺を職員と時折散歩する利用者もおられる。時には、マイントピアのレストランや回転ずし等、外食に出かけられるよう支援されている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) こずかいには、施設預かりと、ある程度理解できる人、希望の人は本人持ちこずかいを持っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話は子機を使用し、いつでも対応できるようにしている。手紙、はがきも本人希望があれば援助している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 家庭の食堂、のような雰囲気を出すように、テレビ以外に心地よい音楽や、その日の気分によって演歌やクラシックを流すようにしている。各空間の壁には、季節の花等を飾るようにながけている。</p> <p>(外部評価) 旅館だった建物を改修して開設した事業所で、食堂から中庭や裏庭を眺めることができる。裏庭に季節の花や野菜を育て、中庭ではバーベキュー等を楽しまれている。毎年、干支のちぎり絵を利用者と職員でつくっており、調査訪問時は馬の絵が廊下に飾られていた。ゴーヤのグリーンカーテンのあるテラスには笹飾りを飾っており、「ボーイフレンドができますように」「これ以上目が悪くなりませんように」等、個々の願いを書いた短冊が吊るされてあった。エプロンを着けソファに腰かけ、洗濯物を畳んでいる利用者の様子や、100歳を超えた利用者に他の利用者が手助けすると、「ありがとうね」とお礼を返す場面もみられた。週2回、体操の先生が来てくれており、食堂で体操教室が開かれている。春には「花が咲く」や秋には「太鼓祭りの歌」等、季節の音楽をかけてストレッチを行っており、利用者が楽しく体を動かせる時間になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 馴染みのあるソファを置き、好きなときに座れるようにしている。また、一緒に洗濯物を干したりたたんだりしている。</p>	
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>(自己評価) 出来る限り、本人の使い慣れたものを持ってきてもらうようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室は1階に6室、2階に3室あり、全室から庭が眺められるようになっている。ご家族やお好きな歌手のポスターを飾ったり、化粧水と鏡を並べている居室もあった。立ち上がりが不安定な方には、握って立ち上がれるように天井から床までのポールを取り付けている居室もあった。全室畳の間で、それぞれにベッドを置いたり、畳に布団を敷いて休まれている。部屋を間違えないように、居室前には名前を書いた札が掛けられていた。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>(自己評価) できるだけ、状況に応じ、見守りにて安全を確保しながら、行動をしてもらっている。また、必要に応じ、手すりを設置している。(トイレの案内板など)</p>	